

NHK

月刊みなさまの声 2021年2月



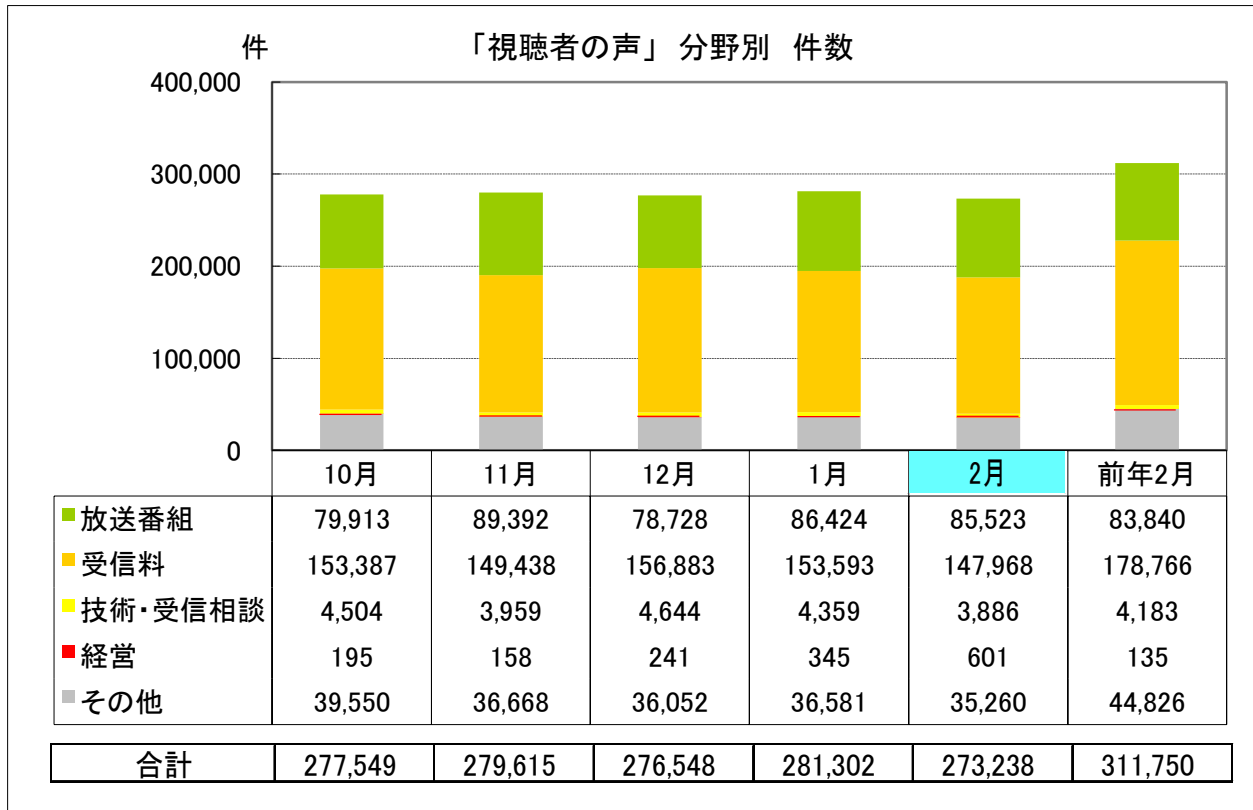
<目次>

1. 視聴者の声の総数と内訳	2
2. 放送番組への声	3
3. 受信料への意見	3
4. 技術・受信相談への意見	4
5. 経営への意見	4
6. インターネット活用業務への声	4
7. 意見・要望への対応	5
8. ピックアップ	8

広報局視聴者部

1. 視聴者の声の総数と内訳

2月にNHKに寄せられた視聴者の声の総数は27万3,238件で、前月より8,064件減少し、前年同月より3万8,512件少なくなっています。



■ 視聴者の意見・要望への対応状況

2月に寄せられた視聴者の声のうち、意見や要望は4万142件で、このうち3万6,024件は、ふれあいセンターのオペレーターなど、意見を受け付けた一次窓口で対応を完了しました。残る4,118件は放送の該当部局、担当地域の営業部や受信相談窓口で回答や説明などの二次対応をしました。本部各部局や全国放送局に直接届いた意見・要望については、原則一次窓口で完了しています。なお、問い合わせについては、ふれあいセンターや該当部局、全国各放送局で速やかに回答などの対応をとりました。

	意見・要望	問い合わせ	その他	受付数	一次窓口で対応完了	該当部局で二次対応
ふれあいセンター（放送）	18,264	33,119	23,701	75,084	16,126	2,138
ふれあいセンター（営業）	2,527	104,997	2,454	109,978	1,521	1,006
ふれあいセンター（受信相談）	2,040	1,191	763	3,994	1,066	974
本部各部局	14,203	6,612	1,552	22,367	14,203	
全国各放送局	3,108	51,917	6,790	61,815	3,108	
合計	40,142	197,836	35,260	273,238	36,024	4,118

※ハートプラザ（放送センター）の受付件数はふれあいセンター（放送）に含まれます。

2. 放送番組への声

2月に放送や番組に寄せられた視聴者の声は8万5,523件でした。このうち番組に対する意見は1万9,925件で、好評と不評で分類すると好評意見がおよそ32%、厳しい意見はおよそ68%でした。

	12月	1月	2月	2020年2月
好評意見	29.1%	28.5%	31.8%	23.7%
厳しい意見	70.9%	71.5%	68.2%	76.3%

■2月 反響の多かった番組

大坂なおみ選手が優勝した全豪オープンテニスや、大河ドラマ 麒麟がくるの最終回・総集編、新たに始まった大河ドラマ 青天を衝けなどに多くの反響が寄せられています。

全豪オープンテニス2021 女子シングルス・準決勝「大坂なおみ」対「セリーナ ウィリアムズ」(2/18) (総合、総合サブ)	1,970件
大河ドラマ 麒麟(きりん)がくる<最終回> 第44回「本能寺の変」(2/7) (総合、BS7は7M、BS4K)	1,671
全豪オープンテニス2021 女子シングルス・決勝「大坂なおみ」対「ジェニファー プレイディ」(2/20) (総合、総合サブ)	891
全豪オープンテニス2021 女子シングルス・3回戦「大坂なおみ」対「オンス ジャバー」ほか(2/12) (総合サブ)	734
大河ドラマ 青天を衝(つ)けく新> 第1回「栄一、目覚める」(2/14) (総合、BS7は7M、BS4K)	624
大河ドラマ 麒麟(きりん)がくる 総集編(2/23) (総合、BS4K)	600
ガッテン!「たった2分で血圧低下!?ミクロの“ツボ”刺激で魔法のガス大活躍」(2/3) (総合)	502
うたコン「あの頃と出逢(あ)う、青春の歌~冬~」(2/23) (総合)	428
全豪オープンテニス2021 女子シングルス・2回戦「大坂なおみ」対「キャロリン ガルシア」(2/10) (総合サブ)	341
全豪オープンテニス2021 女子シングルス・4回戦「大坂なおみ」対「ガルビニエ ムグルーサ」(2/14) (総合サブ)	336

3. 受信料への意見

受信料に関して2月は、14万7,968件の意見や問い合わせが寄せられました。ふれあいセンター(営業)では、10万9,978件を受け付け、このうち、苦情を含む意見や要望は2,527件でした。一次窓口で対応を完了したのは1,521件(60%)で、1,006件(40%)については担当地域の営業部・センターが二次対応しました。

	事由	件数
スタッフ関係	訪問員等の対応、説明不十分等	600
	訪問日、訪問時間に対する不満	0
受信料制度	受信料制度への不満・不公平感	71
	料金体系・料額への不満	32
事務処理関係	事務手続き(割引・返金等)の遅れ等による苦情	70
番組サービス	「番組内容が悪い」等の不満	24
その他	営業活動や受信料についての問い合わせ等	1,730
合計		2,527

4. 技術・受信相談への意見

技術・受信相談に関して2月は、3,886件の意見や問い合わせが寄せられました。このうちふれあいセンター（受信相談）および各放送局の受信相談窓口では3,236件を受け付けました。

内訳は、受信不良の申し出が2,040件、受信方法やテレビのリモコンの操作方法などの技術相談が1,196件です。このうち受信不良の申し出については一次窓口で対応を完了したのが1,066件（52%）で、974件（48%）は訪問による二次対応で改善の指導や助言を行いました。技術相談についてはふれあいセンターや各放送局の受信相談窓口で対応しました。

事由		件数
受信不良		2,040
	一次対応	1,066
	個別受信設備不良	927
	共同受信設備不良	96
	建造物による受信障害	1
	雑音障害	35
	混信・難視聴など	7
	二次対応	974
技術相談（受信方法などへの問い合わせ）		1,196
合計		3,236

5. 経営への意見

NHKの経営に関して2月は601件の意見や問い合わせが寄せられました。このうち、ふれあいセンター（放送）で受け付けた意見や問い合わせは475件でした。内訳は「不祥事」関連が284件、「経営計画」関連が67件、「経営委員会」関連が21件、「公共放送」関連が16件、「職員制度」関連が12件、「予算」関連が7件、「情報公開」関連が4件、「その他」が64件でした。

6. インターネット活用業務への声

放送・営業ふれあいセンターや全国の放送局に寄せられた視聴者の声のうち、インターネット活用業務についてのものは1万539件。そのうち79%が「NHKプラス」についてでした。問い合わせ内容としては、IDの登録方法に関するものが多く、特に高齢の方からスマートフォンでの登録が難しいという声が依然として多く寄せられていることから、登録方法をわかりやすく解説する動画やマニュアルを制作し、NHKオンラインで公開するなど対策を進めています。NHKプラス以外では、NHKオンラインや各番組のウェブページなどの「ホームページ」、NEWSWEBなどの「動画音声配信」に問い合わせが寄せられました。

7. 意見・要望への対応

■公共メディアキャンペーン「いま、学びを守ろう。」

新型コロナウイルスは子どもたちの学びにも大きな影響を与えています。中でも以前から困難な環境にあった子どもたちがさらに追い詰められ、「学びたいのに学べない」教育機会の喪失が広がりつつあります。NHKは、こうした課題と向き合い、子どもたちの未来の選択肢が狭まることのないよう、公共メディアキャンペーン「いま、学びを守ろう。」を1月から展開しています。



ハートネットTV「コロナで取り残される子どもたち」(2/2、3・Eテレ)

「ハートネットTV」は2夜連続で、“コロナで取り残される子どもたち”について考えました。保護者の年収や家庭環境による教育格差が広がる中で、子どもの学びの機会を守ろうと奮闘するNPOの活動から、今後、何が必要かを探りました。また、子どもたちの声を生放送で紹介し、当事者のリアルな心の叫びに耳を傾けました。

「おはよう日本」では、18歳未満で家族の介護などを担う“ヤングケアラー”を取り上げました。



「おはよう日本」(2/11・総合)



「学びたいのに学べない」(2/13・Eテレ)

13日には、キャンペーンの柱となる特別番組「学びたいのに学べない」を放送しました。シングル家庭や外国にルーツをもつ子どもたちを取材し、教育格差の実態と課題をデータで明らかにし、解決策を考えました。

このほか「あさイチ」や「逆転人生」などレギュラー番組でも関連企画を多数放送し、「学びたいのに学べない」子どもたちを支えるための学校の新たな取り組みなどを紹介しました。

<主なキャンペーン関連番組(放送順)>

- あさイチ「コロナから“学び”を守ろう！」(1/20・総合) ■国際報道2021「パキスタン“シンドのマララさん” 貧しい子どもたちに学びを」(1/21・BS1) ■逆転人生「貧困の連鎖を断て！西成高校の挑戦」(1/25・総合) ■ニュース シブ5時「コロナで注目 YouTube授業動画」(1/28・総合) ■ラジオ深夜便▽ママ☆深夜便「ことばの贈り物」(1/29・ラジオ第1/FM) ■クローズアップ現代+「コロナ禍の高校生～ルポ“課題集中校”～」(2/3・総合)

このほか、山形、秋田、広島など地方局でも特集番組を制作



【視聴者の声】

- ・ 学びたいのに学べない、本当にやるせない社会だ。これ以上、格差を広げないためにも私大への補助金の増額などできることはあるはずで、国が一刻も早く対策をとるべきだと感じた。(60代男性)
- ・ 若い人たちが祖父母などを介護するという実態や、当事者の思いを知って衝撃を受けた。引き続き介護を担わなければいけない若者の実態を取材してほしい。(60代女性)

3月には、キャンペーンで伝えた情報を当事者たちがどう受け止めたのか、全国の大学生以下の子どもたちと語り合ったり、海外を含め、先駆的な地域、学校の取り組みを紹介したりする参加型番組を放送し、解決への道を探ります。

■震度6強の地震 ニューススタジオからのメッセージに反響

2月13日深夜、福島県と宮城県で震度6強を観測する地震がありました。その翌朝、午前5時のニュースの冒頭、糸井羊司アナウンサーがスタジオから伝えたメッセージに、視聴者の皆さんから「心が温まった」など多くの反響をいただきました。ネット上でも、「感動した」といった内容のツイートがその日だけで400件近く投稿され、「糸井アナ」というワードがトレンド入りするなど、大きな話題になりました。



午前5時のNHKニュース（2月14日）

おはようございます。5時になりました。ほとんど眠れなかった方、早く目覚めてしまった方、ともにお疲れのことと思います。日の出まであと1時間ほどになりますけれども、できるだけ安全な場所で、少し目を閉じながらでもかまいませんので、最新の情報をお聞きいただければと思います。

（14日午前5時のニュースの冒頭のことば）

●胆振東部地震の経験から

土曜日の午後11時過ぎ、家族とくつろぎ、寝る支度をしていたという糸井アナウンサー。大きな揺れの直後に家を飛び出し、地震発生からおおよそ50分後にはスタジオで地震のニュースを伝え始めました。翌朝、午前5時のニュースも担当することが決まり、放送を見てくださる方の気持ちになって伝えるにはどうすればいいか、考えたそうです。そのとき、思い起こしたのが、3年前の札幌放送局時代、胆振東部地震のときの経験でした。今回の地震同様、広範囲で停電が発生。ライフラインが使えないというストレスで思いのほか眠れない、やがて復旧しても緊張感で眠りが浅い、気づくとテレビをつけたまま明け方になっていたといいます。その時の体験をもとに、いま視聴者がどんな気持ちでいるのかを考え、自分のことばで語りかけました。糸井さんは、原稿やマニュアルを越えて、どれだけ血の通った、生きたことばを伝えられるか、難しいけれども今後も大切にしていきたいと話しています。



【視聴者の声】

- ・ 福島に住んでいてほとんど眠れなかったが、糸井アナの優しさが伝わり、肩の力を抜く事ができた。（年代不明女性）
- ・ 10年前の記憶がよみがえり、1人暮らしで不安だったが、早朝、地震の影響を受けた地域の人たちに寄り添うことばを聞いて、しみじみとした温かい気持ちになった。（20代男性）
- ・ 心温まる放送をありがとう。将来、アナウンサーは、AIにとって代わられると言われているが、こうした血の通った温かいコメントは人間にしかできない。これからも視聴者に寄り添った放送を期待している。（60代男性）

●3. 11後の災害報道の見直し

10年前の東日本大震災をきっかけに、NHKは、いのちを守り、被害を減らす「減災報道」の重要性に改めて目を向け、報道のあり方を見直しています。たとえば、大津波警報が出た際には避難の行動につながるよう、強い口調の呼びかけや、言い切り型の伝え方などを取り入れることにしました。具体的に「命を守る行動」を呼びかける新たなマニュアルも作り、訓練と研修を続けています。さらに、全国の地方放送局では、災害に備える地域の方々へのヒアリングを行い、専門家の知見をもとに、地震や豪雨、台風など、それぞれの



「命を守る呼びかけ」のマニュアル



住民の方々へのヒアリングの様子
（2019年12月・函館）

状況下で、どんなことばや映像が行動につながるのか、検討を重ねています。

■誤記・誤読などの指摘への対応（2月）

視聴者からの指摘をもとに確認の結果、2月の放送でのテロップや誤読などのミス、事実関係の間違ひは61件(1月は68件)、ホームページは32件(1月は29件)ありました。

◆放送 誤記・誤読

日付	メディア	番組名	種別	内容	対応
2/1	総合	NHKニュース7	テロップ	×内務相 ○内相	再発防止に向け 情報共有
2/2	BS プレミアム	イッピン	テロップ	×引前 ○弘前	再放送で修正
2/3	総合	NHKニュース おはよう日本	テロップ	軍を×避難 ○非難	番組内でお詫び
2/12	Eテレ	ららら♪クラシック	テロップ	×主席指揮者 ○首席指揮者	再放送で修正

◆放送 事実誤認

日付	メディア	番組名	種別	内容	対応
2/1	総合	鶴瓶の家樹に乾杯	コメント	山口県の角島で取れた魚介を 「瀬戸内の海の幸」と紹介	再放送で修正
2/4	総合	ネーミングバラエティ 日本人のおなまえっ!	テロップ	コザ市が誕生した1956年 ×昭和36年 ○昭和31年	再放送で修正
2/14	BS1	BS1スペシャル	テロップ	階級章とテロップの階級が違う ×中将 ○大佐	再放送で修正
2/15	BS1	奇跡のレッスン	図	将棋盤に銀が5枚ある	再放送で修正
2/17	総合	歴史秘話ヒストリア	コメント	釘隠しの意匠 ×ネズミ ○リス	再発防止に向け 情報共有

◆ホームページ

日付	番組名	種別	内容	対応
2/3	まいにちフランス語	誤記	phareの分類 ×女性名詞 ○男性名詞	現場に指摘 修正
2/7	ディスカバー・ビートルズ	誤記	×“Abbey Load” side A ○“Abbey Road” side A	現場に指摘 修正
2/21	NHK映像ファイル あの人に会いたい	誤記	「また逢う日まで」の発売年 1971年×20年前 ○50年前	現場に指摘 修正

8. ピックアップ

■【大河ドラマ】麒麟（きりん）がくる <全44回>

第1回「光秀、西へ」～最終回「本能寺の変」

2020年1月19日（日）

～2021年2月7日（日）

総合 後8：00～8：45、

BSプレミアム 後6：00～6：45、

BS4K 前9：00～9：45

※第1回は75分、最終回は59分



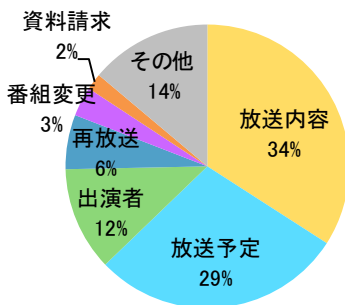
反響1万4,420件 ※2020年1月12日～2021年2月9日で集計

(好評意見2,458件、厳しい意見2,929件、問い合わせ7,476件、その他の意見1,557件)

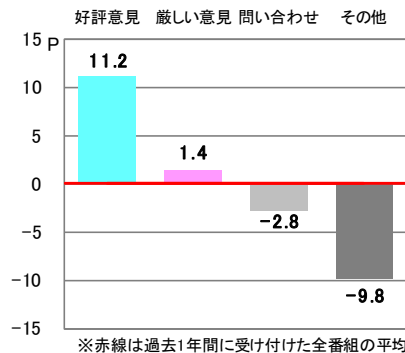
日本史上最大のクーデターとされる「本能寺の変」。群雄割拠の戦国時代、「世を平らかにする」という理想を追求し義を貫いた知将・明智十兵衛光秀（長谷川博己さん）が、主君の織田信長（染谷将太さん）を討つまでの半生を重厚に描きました。開始前の出演者交代による初回放送の延期や、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う2か月半に及ぶ一時中断、年をまたいで番組の継続など、放送期間中も異例の対応が続きました。

1万4,000件を超える受付総数のうち、放送予定、番組変更などに関連した意見や問い合わせが32%近くを占めています。また、反響全体では男性からの声の方が女性よりも多かった一方、好評意見の60%近くは女性から寄せられ、特に30代から50代に広く支持を集めました。

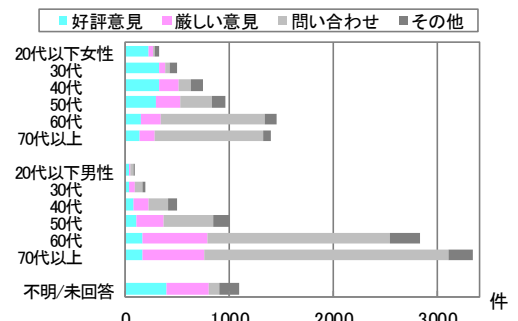
●受付内容の内訳



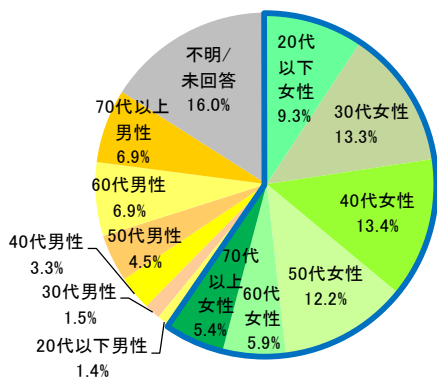
●意向種別の相対比較



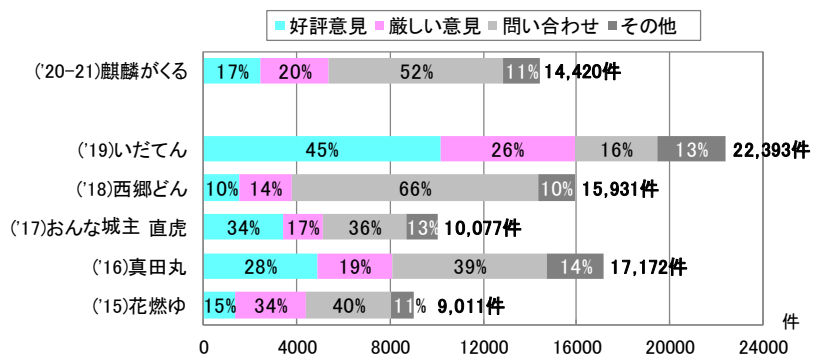
●意向種別×年代性別



●好評意見の性別年代別の内訳

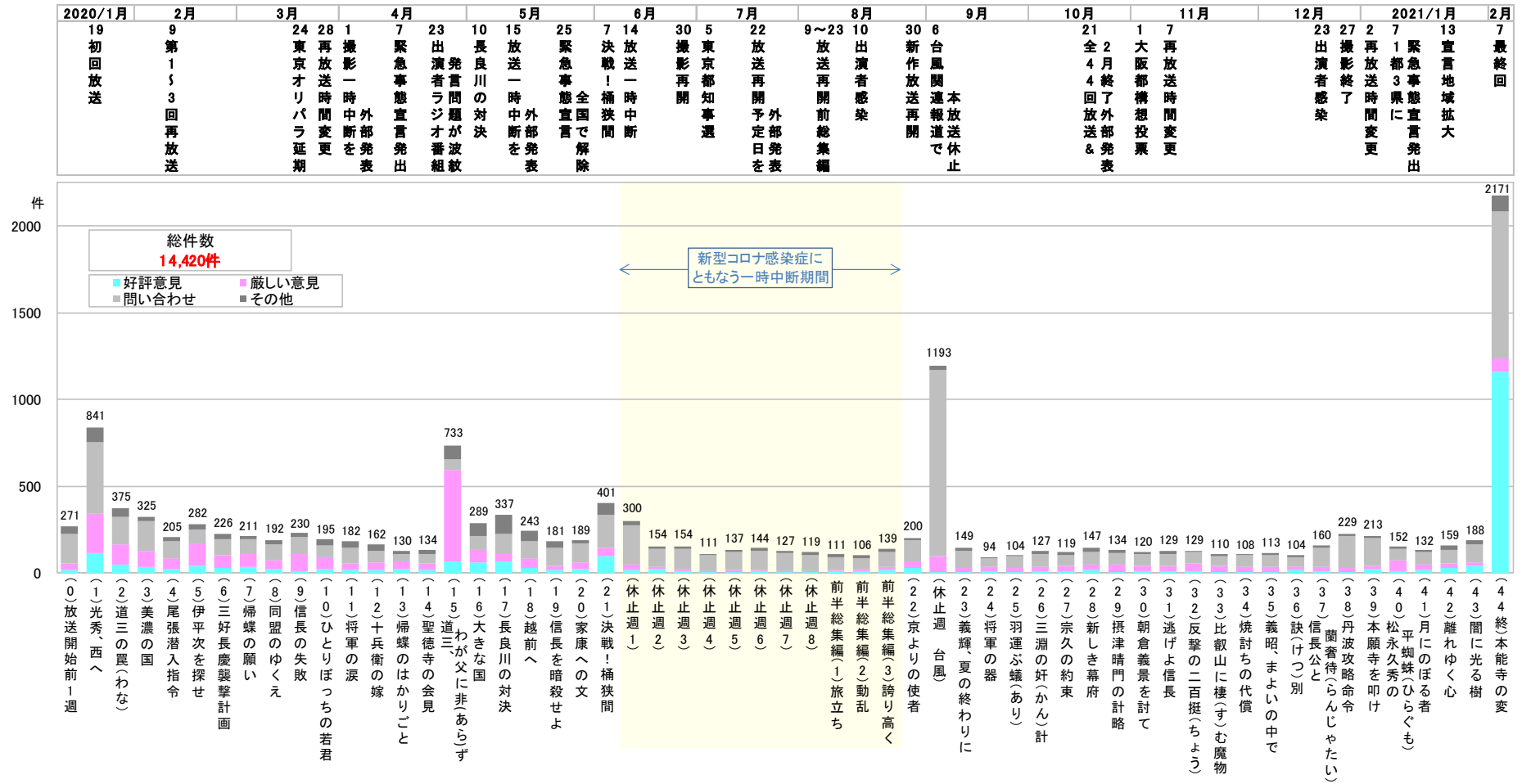


●過去の大河ドラマとの比較



このほか、戦国時代を取り上げた大河ドラマとして初めて全編が4K画質で撮影されました。また、2020年4月から本運用が始まった「NHKプラス」でも配信されました。

●受付件数と意向種別の推移



放送期間中の受付件数と意向種別の推移を見ますと、4月下旬にコロナ禍における出演者の不適切な発言に厳しい意見が届いたほか、9月6日に台風10号関連報道のため番組を休止した際に問い合わせが相次ぎました。また、斎藤道三(本木雅弘さん)が最期を遂げた「長良川の対決」や、織田信長躍進の契機となる「決戦！桶狭間」など物語の転換点となった回で好評意見が増えました。最終回「本能寺の変」では2,171件の反響の半数以上が好評意見で、「十兵衛の生きざまに“麒麟をみた”」「自分の心の中にも“麒麟がきた”」という声は、2月23日に全編の「総集編」の放送を終えた後も続いています。

【主な内容】

<好評意見>

- ・ 麒麟を追い求める明智十兵衛のまっすぐな志は、コロナ禍で大変な時期に戸惑う心の支えになった。ラストシーンも未来への明るい希望を感じさせ、いつかこの現世にも“麒麟がくる”ことを願わずにはいられず、胸に染み入るものがあった。(40代女性)
- ・ 医療従事者。信長が生きた悲しい時代背景やトップとしての責任と孤独、悲しさを想像し、「是非もなし」がコロナ禍における現状とシンクロし、涙があふれた。(50代男性)
- ・ 脚本・演出・音楽・美術どれもすばらしく、過去最高の大河ドラマだと思う。十兵衛と信長のすれ違いの果ての本能寺は、新しくもあり切なくもあり胸を打たれた。長谷川博己さんは繊細な心の動きを目や表情で巧みに表現していて、圧倒された。(年代性別不明)
- ・ 染谷将太さんの信長は無邪気さに潜む狂気が恐ろしく、かつ魅力的でひきつけられた。子ども時代からの孤独を埋めるように周りからの愛情を確かめずにはいられない、悲哀に満ちたいとおしい存在。本能寺での最期には涙を禁じ得なかった。(40代女性)
- ・ 急な代役ながら、帰蝶役を走りきった川口春奈さんに脱帽だ。“嫂(まむし)の道三”の娘で信長の正室という肩書きに引けを取らない、紛れもなく女傑だった。(30代女性)
- ・ 子どもの受験もあり自身の生活も大変な1年だったが、無事に合格しわが家にも麒麟がきた。心のよりどころだったこの番組のおかげで、わが子に対して精神的に安定して接することができたからだと、勝手に感謝している。(40代女性)
- ・ これまで裏切り者とされてきた明智光秀を、1人の武将、1人の義理堅い愛すべき人間として再認識した。また、44回の放送を完走した“チーム麒麟”スタッフの熱い思いも確かに感じ取ることができた。(30代女性)
- ・ 戦国三英傑の勝者からの視点だけではなく、室町幕府の終えんや公家社会の策略も掘り下げていて斬新な解釈が興味深かった。十兵衛の物語の続きも見てみたい。(50代女性)

※続編、スピンオフについての意見や要望586件

<厳しい意見>

- ・ 本能寺の変に続く秀吉との天王山、「山崎の戦い」がナレーションだけだったことが物足りなかった。光秀が主人公だからこそ外せないし、長谷川さんと佐々木蔵之介さん(羽柴秀吉)がすばらしい演技だっただけに、なおさら残念だった。(年代性別不明)
- ※「山崎の戦い」についての意見や要望63件
- ・ 信長から足利義昭抹殺を命じられたことが光秀挙兵の引き金となっていたが、新説を盛り込むことについて、ドラマとはいえ慎重であってほしい。分からないことは分からないままでもよいので、史実・通説を尊重してほしい。(60代男性)
 - ・ 劇中の十兵衛の感性は現代人に近すぎるので、当時の武将に寄せたほうがよい。戦乱の時代は、私利私欲のために主君や親兄弟も手にかける。十兵衛が目指したのも「平らかな世」というあいまいなものではなく、幕府再建による秩序の復活とすべき。(年代性別不明)
 - ・ 番組中絶から再開した後半以降はスケールの大きな合戦シーンが少なく、心理描写や軍議のような場面が目立った。新型コロナの影響による制約も理解はしているが、かつての大河ドラマのように骨太でダイナミックな人物や展開を希望する。(50代男性)

○新型コロナウイルスの影響による中断について

- ・ コロナ禍のかつてない困難のなか、年を越して最終話まで放送した英断に感謝しかない。演者の方々の好演はもちろん、ツイッターでの放送後のコメント公開など、この状況ならではの新しい楽しみ方も発見できた。
(年代性別不明)
- ・ 「麒麟がくる」の再開を心待ちにしていた父。それまで良好といえなかった親子関係も、大河ドラマをきっかけに修復できた。しかし、父は再開を待たずに6月にガンでこの世を去った。もう再び撮影が中断されることがないように祈りつつ、父の代わりにこれからも毎週楽しみに見届けたいつもりだ。(8月に受付) (30代女性)
※新型コロナウイルスの影響などについての意見や問い合わせ3,084件

○衣装について

- ・ 当時の時代考証では鮮やかな色の着物を着ていたらしいが、やはり色使いが過剰だ。デザインもウサギや蝶の柄は大胆すぎて、番組全体のリアリティを損ねかねない。もう少し自然な色彩に調整できなかったのだろうか。
(60代女性)
- ・ 初めて4Kで見た今回の大河ドラマ、印象的だったのはすばらしい衣装だった。豪華というだけでなく色彩や模様など考え抜かれていた。こだわりが詰まった衣装と、その素材感までも伝わってくるすごさに目を見張った。
(50代女性)
※衣装についての指摘や意見246件

○所作について

- ・ 女性が座るシーンでひざを立てていたが、江戸時代以前はこれが正しい座り方だったのだろうか。一般的に行儀が悪いとされる座り方なので気になってしまう。
(70代以上男性)
- ・ 最近の歴史研究では、この時代の身分の高い女性は立てひざで座るのが正しく、それをドラマに取り入れていること、きちんと発信することの意義は大きいと思う。
(60代女性)
※立てひざなど所作についての指摘や意見219件

○架空の登場人物について

- ・ 医者や町娘、旅芸人が強力な人脈を持ち、朝廷や将軍、はては歴史にも介入することに違和感がある。架空の話を取り入れることは悪くないが、現代的な思考を持つ人物に時間を費やすよりも、新しい史実や主人公十兵衛の内面をもっと知りたかった。
(年代性別不明)
- ・ 戦国時代は武将たちだけが活躍したわけではなく、公家や商人はもちろん名もなき庶民らの生活もあった。東庵先生や駒さん、さまざまな身分の人たちが活躍する姿を描くことで、活気のあるドラマになっていたと思う。
(30代女性)
※架空の登場人物についての意見151件

○セットや背景などについて

- ・ 田んぼがきれいに区画整理されて道路も直線に見えたが、昔の田んぼはひょうたん型や丸形だったはずだ。時代考証はしっかりやってほしい。
(60代男性)
- ・ 安土城大広間240畳、これがスタジオのセットだと聞いて驚いた。贅を極めた装飾といい、本物の城の中で撮影したのかと思えたほどの完成度だった。
(30代女性)

■日曜討論

「ジェンダーギャップ解消へ
与野党に問う」

2月28日(日)

総合・ラジオ第1 前8:00~9:00

反響108件 ※2月22日~3月1日で集計

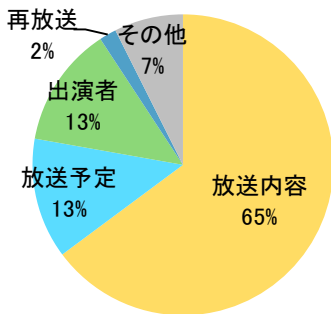
(好評意見18件、厳しい意見35件、

問い合わせ19件、その他の意見36件)

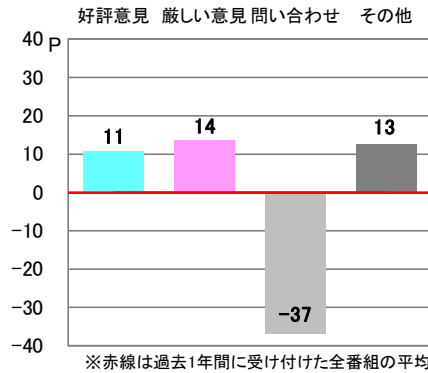


ジェンダーをめぐるさまざまな課題について、各党の女性議員が討論しました。男女格差の現状、コロナ禍で女性が苦境に立たされている要因と対策、女性の政治参加をどう進めるのかなどをテーマに、与野党の女性議員が意見を交わしました。日曜討論で出演者全員が女性というのは初めてで、いろいろな視点の女性の声をきちんと聞いたのでよかったといった好評意見があった一方、女性だけ集めるのは逆差別ではないかという声もありました。

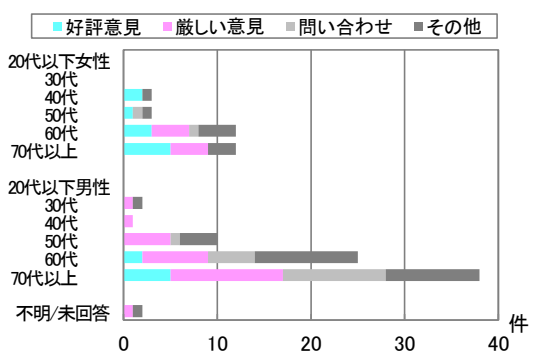
●受付内容の内訳



●意向種別の相対比較



●意向種別×年代性別



【主な内容】

<好評意見>

- 森喜朗氏の発言が気になっていたが、女性がきちんと意見を言えるような場を設けてくれて本当に良かった。しかも各党のいろいろな視点の声を聞いたので良かった。今後もこのような試みを続けてほしい。(40代女性)
- きょうの放送を夫婦で興味深く見た。女性が幸せに生きられるということは男性も幸せになれるということ。今後も、こうした視点で現実を捉えた放送を期待している。(60代女性)
- 私も企業の管理職をしているが、会議では疎一点のことが多く、発言をすると陰口を言われるのでことばを飲み込むことも多い。森氏の発言が、日本が変わるよいきっかけとなるよう、今後もこうした番組を定期的につけてほしい。(40代女性)
- いつもは、ほとんどが男性で、女性は押し切られてしまい、考えが伝わりにくい。軍事、外交、経済政策など、また女性だけで討論する機会を作っていただきたい。女性の意見がわかれば、選挙の際、投票しやすくなると思う。(70代以上男性)

<厳しい意見>

- NHKの報道は森氏のように、古い感覚を持った男性に遠慮しているようなところがある。そうした世代の人たちに振り回されずに今回のような番組制作をお願いしたい。(70代以上女性)
- 最後に、次回は党の男性幹部も一緒になって議論しようという声が出たが、私もそう思う。女性だけ集めるのは逆差別ではないか。女性と議論することで男性にも気づきがあるだろう。(60代女性)
- 私は70歳で大学を出ているが、「ジェンダー」ということばを知らず、改めて辞書を引いた。時々、ことばの解説を出してもらえるといいと思う。(70代以上男性)